

災害対策費用保険の加入状況ならびに支払保険金について

■災害対策費用保険の課題について

災害対策費用保険の令和2年度加入率は、35.7%の状況となっております。

昨今の気候変動に伴う自然災害の急激な増加に伴い、自治体にはできるだけ早期に必要な避難勧告等の発令が求められております。

住民の生命・身体の安全のために、迅速かつ適切に予防的な避難勧告等を発令することが不可欠になっている中で、避難勧告等を発令した災害が災害救助法の適用とならなかった場合には、発生した各種費用は町村等が負担します。その負担費用の一部を保険金と支払うことができるのが、災害対策費用保険になります。

過去、災害等の被害が少ないとされていた都道府県においても、気候変動により災害被害が数多く生じている中で、住民の生命・身体の安全を守りつつ、町村財政の圧迫を防ぐため、災害対策費用保険の加入促進を行い、まずは加入率を50%程度まで上げることが課題となります。

■ご加入状況ならびに支払保険金額

年度	加入自治体数	地震・噴火・津波オプション 加入団体数	支払保険金額（円）
平成29年度	113	-	82,366,795
平成30年度	207	-	270,194,802
令和元年度	297	40	195,095,921
令和2年度	331	59	326,398,743

■地域別の加入率（令和2年度）

地域	加入率（%）
北海道・東北	16.0
関東	23.6
北信	36.0
東海	31.3
近畿	43.7
中国	43.4
四国	56.1
九州	70.3

■地域別の支払保険金額（令和2年度）

地域	支払保険金額（円）
北海道・東北	10,700,030
関東	5,994,563
北信	3,302,636
東海	8,245,687
近畿	6,667,249
中国	23,619,338
四国	31,536,344
九州	236,332,896
合計	326,398,743

令和3年5月20日から

警戒レベル

4

ひなんしじ

避難指示で必ず避難

ひなんかんこく

避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫	きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~			
4	 災害の おそれ高い	ひなんしじ <b>避難指示</b> ※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 災害の おそれあり	こうれいしゃとうひなん <b>高齢者等避難</b> ※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	 気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 今後気象状況 悪化のおそれ	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、

すでに安全な避難ができず  
命が危険な状況です。

警戒レベル5緊急安全確保の  
発令を待ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。

これからは、

警戒レベル4避難指示で  
危険な場所から全員避難  
しましょう。

避難に時間のかかる

高齢者や障害のある人は、

警戒レベル3高齢者等避難で  
危険な場所から避難  
しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁



ひなん  
「避難」って  
何すれば  
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけ  
が避難ではありません。  
「避難」とは「難」を「避」けること。  
下の4つの行動があります。



### 行政が指定した避難場所 への立退き避難

自ら携行するもの

- ・マスク
- ・消毒液
- ・体温計
- ・スリッパ 等



### 安全な親戚・知人宅 への立退き避難

普段から災害時に避難  
することを相談して  
おきましょう。

※ハザードマップで安全か  
どうかを確認しましょう。



普段から  
どう行動するか  
決めておき  
ましょう

### 安全なホテル・旅館 への立退き避難

通常の宿泊料が必要  
です。事前に予約・  
確認しましょう。

※ハザードマップで安全か  
どうかを確認しましょう。

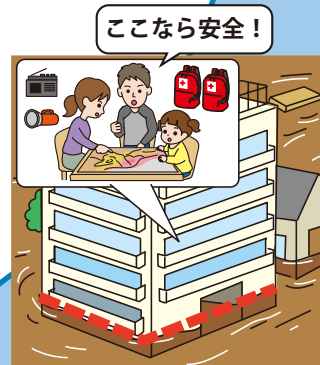


### 屋内安全確保

ハザードマップで以下の  
「3つの条件」を確認し  
自宅にいても大丈夫かを  
確認することが必要です。

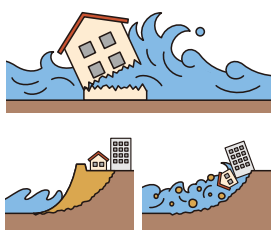
想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある  
区域では立退き避難が  
原則です。



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない  
(入っていると…)



流速が速いため、  
木造家屋は倒壊する  
おそれがあります

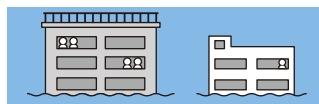
地面が削られ家屋は  
建物ごと崩落する  
おそれがあります

- ② 浸水深より居室は高い

3・4階	5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
2階	3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
1階	0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

- ③ 水がひくまで我慢でき、  
水・食糧などの備えが十分  
(十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる  
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の  
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。